



## 開かれたビオトープ

壁は言葉を遮る。しかし、ある日子供たちが硝子越しに、  
両側から、まるで会話をするように絵を描いて遊んでいたのです。  
そのとき、たとえば言葉がなくとも会話を楽しむことが出来るのだと教えられたのです。

結露する硝子に絵を描くことは誰もがしたことのある遊びの一つだと思います。  
しかし結露は建築物にとって忌み嫌われるものの一つでもあります。

ここでは、むしろ結露を促進し、非言語コミュニケーションを媒介するものとしての硝子を見出したいのです。

このパンデミックの状況下で、どこに行っても不恰好なパーティションに遮られてしまった空間が、  
硝子を介することで、むしろより豊かな創造的戯れの間になればと考えています。

ビオトープの栓を空けて、閉じ込めていたものを開く。こちらとあちらが往還する。  
そして町中の、自分の部屋の、あらゆる硝子が少しずつ、幸せなもの色彩を帯び始める。

単に隔てる事ではない列の仕方で、新しい境界を探求すること。  
それは、これまでも私たちの傍にあった些細な出来事に含まれていたのかもしれないと、  
硝子によって気付かされたのです。

結露は白紙のキャンバスを生成し続けます。  
硝子の温度によって下から上へ透明度のグラデーションをつくります。

硝子の温度調節によって結露を発生させます。  
これはウィルスの生存環境に関わる湿度の可視化でもあります。

滴る結露は植物の水分としてポケットに流すなど、二次利用します。  
そして、気化した水分はまた結露へと循環して行きます。

